

ニュース

春の叙勲・褒章

あはき・柔整業界から5名

あはき・柔整業界からの春の叙勲・褒章は以下の通り。(敬称略、順不同)

◇旭日双光章

大和田征男 (元社団法人茨城県鍼灸師会会長)

鎌田光教 (元公益社団法人秋田県柔道整復師会会長)

◇旭日単光章

塚本倉一郎 (元公益社団法人兵庫県柔道整復師会副会長)

西島稔了 (元社団法人福岡県柔道整復師会会長)

◇黄綬褒章

小澤信男 (小澤はりきゅうマッサージ理療院・岩手県)

商品紹介

三重化学工業

『アイシングフィット・G』

「こんにやく状ゲル」の急性期用冷却剤

三重化学工業株式会社の急性期用冷却剤、『アイシングフィット・G』。

急性期における冷却と圧迫に、「形状やフィット感にこだわった」と同社。独自の「こんにやく状ゲル」を使用、ゲルが逃げず床づきしにくく、二次的な痛みの箇所まで覆うことができる。内容物は急性経口毒性・皮膚刺激性・眼刺激性試験で安全性の高いものを採用した。

「指用」(写真右)、「関節用Mサイズ」(写真左)、同Lサイズと、腰部や背部など面積が広い箇所に使え、上・前腕や大腿・下腿部の全周を覆える「連結タイプ」がある。



で、実家近くのよ、通った、今は無き診療所の待合室の間取りとか、壁に貼られたポスターとか、県立病院の待合室のソファを伝って歩いて母親に「ジツと座っていなさい」と怒られたこととか、駐車場の片隅にあるたこ焼き屋を、買ってもらえず恨めしそうに眺めて帰る車中とか……考えてみると、病院でのほとんどの思い出は待っていた時の記憶です。もちろん、ようやく呼ばれた処置室で「え、こんなに血を採るの？ いつもより本数多い！」と採血する際のブルーな気持ちや、お尻に筋肉注射をされる時の緊張感も覚えています。ですが、今も昔も、病院で「待たされる」ことは変わらないように思います。と、今年のゴールデンウィークにこのようなことに思いをはせていました。予約システムやポケッ

待つ時間と移動の時間

～医療のイノベーション～

者さんと呼び、それを自分の番はまだかまだかと患者さんが「待つ構造」は基本的に変わっていません。医療の効率化を考えた時に、在宅診療がリソースの無駄遣いをしていることに気がついていないでしょうか？ 一般内科に限って言うと、通常の外来では1日40〜50人、混む地域では100人を診なければならぬ診療所もあります。ところが、在宅診療では20軒回ればいい方です。しかも人件費の高い医者を車に乗せた「移動」の占める時間が長い。患者さんが通院できないから往診しているわけですが、もつと効率化できないものかと思っていました。「移動」の時間をどうにかしたい、と。在宅診療に出かけて滞りに巻き込まれると、「そろそろ、この車が空を飛んでもいい頃じゃないか」と

効率化とICT化も、間違った方向を向いているように感じます。電子化することによって効率化するのには会計事務だけでなく、医療者はかえって余計な仕事が増えて非効率になっていきます。電子カルテ導入率が10年前に3割、現在も3割とほとんど変わっていないのがそれを物語っています。日常生活ではこの10年の電子化で圧倒的な変革が起こっているにもかかわらず。私は「みんなのカルテ」という電子カルテを開発していますが、他のベンダー各社とは視点を変えて進めてきました。小手先のイノベーションではなく抜本的な変革を起こせるかどうか、チャレンジングを続けていきます。

臨床に役立つ

中国医学情報

☆脳卒中後摂食嚥下障害の鍼通電で異なるヘルツ数を比較

広州中医薬大学・張立志らは、西洋医学の内科

☆感音性難聴32例の皮内鍼治療

北京市豊台中西医结合病院・丁玉龍らは、感音性難聴患者への皮内鍼治療を報告した(中国鍼

対象=患者62  
約45歳、平均罹  
に常軌群・併用  
治療法=両群  
ビリ訓練と食事  
病を伴う時は人